高級ショッピング街で新たな顧客へアピール

フォステクスショールーム 東京二子玉川

レポート：末永昭二

フォステクスの「思想」を広めるために

かつてオーディオブームと呼ばれた時代，フォステクス（フォスター電機）も都内にショールームを設けていたが，廃止されて久しい．そこで，フォステクス製品および姉妹ブランドである「KOTORI（コトリ）」の製品を展示したショールームが8月7日，二子玉川にオープンした．

このショールームを企画・発案したのは，フォスター電機から独立し，「株式会社エクスペリエンス」を設立した荒谷正司氏．マネジャーとしてショールームの運営管理を任された荒谷氏は，フォスター電機と協議しながら運営を進めている．

この地を選んだのは，単におしゃれな街でインテリア風な販売を展開するのではなく，フォスター電機の「未来社会に音で貢献する」というビジョンと「音に関わる製品やソリューションを通して，世界中により快適な生活やコミュニケーションの喜びを提供し社会から期待される企業になる」というミッションを，より多くの消費者に直接アピールできる場所だから．フォステクスファンの多い秋葉原近辺ではなく，あえてファッションやショッピングの街を拠点とすることで，これまでフォステクスを知らなかった「秋葉原では来てくれない層」に存在を知らせる場所となっている．この付近には飲食店も多く，ショッピング客のランチの途中に「発見」されることを期待している．

玉川高島屋ショッピングセンター南館に面するわかりやすいロケーション．完成したばかりのビルで，まだインターネット地図には掲載されていないので，ネット検索の際には要注意

このショールームでは通常の販売店と同様に，荒谷氏が運営する販売会社が他ブランドを含めた製品の販売も行う．

スタイリッシュなディスプレイ

約60m^{2}の広さのショールーム内は，コンクリート打ちっぱなしの内装に間接照明．特注したというラック類の背面にはヴィンテージのスピーカーグリル風の布が貼ってあり，大型エンクロージャーのように見えるという演出もなかなかの雰囲気．

試聴スペースに特に音響的な対策，例えば調音パネルなどを置いていないのは，オーディオマニア以外の一般客に「ものものしさ」を感じさせないための配慮という．

まだまだスタートしたばかりで，これからさまざ

シアター用スクリーンも備えた試聴スペース．アンプやソース類は各社からの貸与品が多く，ときどき入れ替えられるとのこと．ソースはアナログからPCまで幅広く対応

試聴スペースに設置されているのはフラッグシップモデルG2000a（左）と最新製品G1003MG（右）の組み合わせ．このほかにGX250MGもスタンバイしている

「最終消費者とのコミュニケーションで生まれたアイデアが製品に反映されるよう提案していきたい」と荒谷正司氏